

江戸前アユだより

～多摩川アユ産卵場の秘密？～

アユは秋になると産卵場所を探しながら下流へ向かって移動し、産卵に適した場所にはたくさんのアユが集まり「集団産卵」というものをします。集団産卵が行われる「産卵場」は多摩川の場合、どこにあるのか。今回は初めて多摩川で探すということもあり、浅川合流点から調布取水堰までの区間、約20kmを3日に分けて探索しました。

その内2日は自転車、1日は徒歩です。アユの産卵場は基本的には瀬に形成されるので、川沿いを自転車で走っていて、瀬があると降りて行って様子確かめるといった具合です。遡上は少ない年でしたが、産卵状況の方は果たしてどうでしょう。



多摩川のアユ産卵場



産み付けられたばかりのアユの卵

「先週来たときはこんなものなかったけど・・・」1週間前、多摩川原橋から二子玉川駅のすぐ下流の瀬までを見て、最後の瀬でアユの卵が見つかった場所でした。今回は二子玉川駅から調布取水堰までの区間。一応、先週見たところの様子も見ていこうと思い、川べりに来たときに川の中に鉄杭が立ててあるのが見えました。その時は何だろうなこれ、とは思いながらも特に気にすることはなかったのですが、この日2箇所目の産卵場で、はっとなりました。また川の中に鉄杭が立ててあります。それも今度はやたら数が多い・・・。ちょっと異様な光景でしたが、アユの産卵場の様子を見に来ていた私には「産卵場所に杭が立ててあるんだな」と、「？」はすぐに確信に変わりました。この日は12月の第二週、11月末までの産卵期禁漁が開けて産卵状況を見に来ていたのですが、まだ産卵保護のための取り組み？が続けられていたのです。杭が川の中に立ててあったら、釣りをするにも、投網を打つにも敬遠しますし、杭を抜いてからやろうとした場合、産卵に集まっていたアユは逃げられるという仕組みです。

特に何か書いてあるわけでもないのに察するしかないのですが、誰かがアユの卵が産みつけられていることを確認して、その場所に杭を立てているようです。

この付近の水域は、航空写真を見ただけで産卵場になっているな、とあたりをつけていた場所なのですが、今回3箇所目の瀬で卵が産みつけられているのを見つけることができました。川の様子を見に来ていた地元の釣り師の方にお話を伺ったところ、この辺りは台風など増水のたびに川の地形が変わるということでした。それでも、私はまた来年もこの辺りが産卵場になると自信をもって言えるのですが・・・、はたしてそれはなぜでしょう！？

今シーズンは高麗川、入間川、柳瀬川、黒目川、多摩川で産卵場の様子を見たのですが、どの川でも産卵場を探す基本的な要領は同じだということが分かりました。しかし、やはり場数を踏むことで新しい発見もあり、この経験が来年どこまで通用するか今から楽しみです。

さて、産卵保護の成果(?)ですが、春の遡上時期を待つまでもなく今年のアユは多いなということを一足先に見てきました。多摩川河口付近には昨年よりずっとたくさんのシラスアユが泳いでいました。もうじきアユの遡上時期ですね。

「江戸前アユだより」は、江戸前アユの現状や今後のあれこれについて現場を見ながら考えてみよう、という情報交換を目的にしています。